資料4
（参考資料）

医療法人　社団明芳会
横浜新都市脳神経外科病院

病床機能変更計画

●SCU病床を30床に変更

●慢性期から急性期への29床転換済

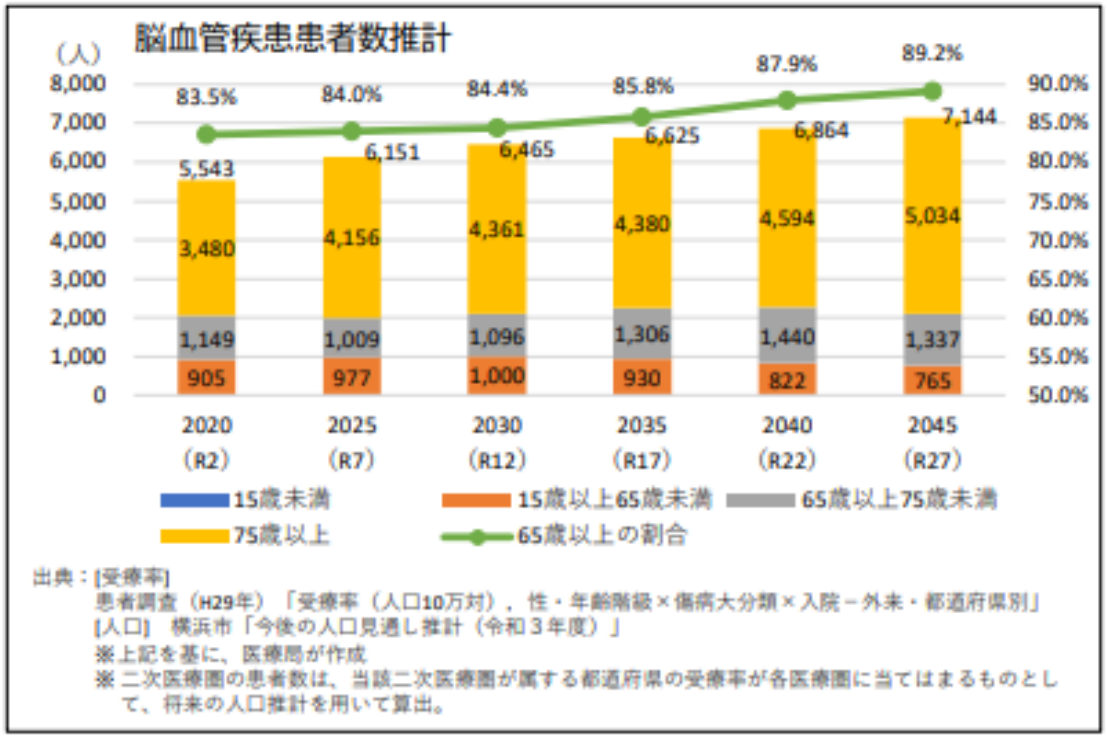
病院長　　森本　将史

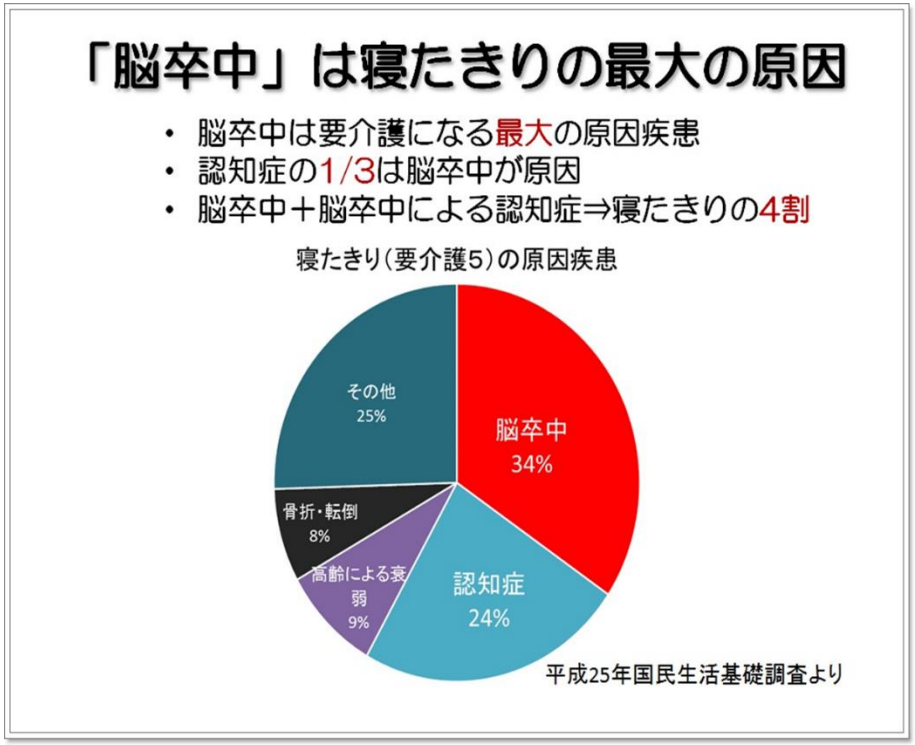
病院概要

病院名	医療法人社団明芳会 横浜新都市脳神経外科病院
所在地	神奈川県横浜市青葉区荏田町433
開設者	理事長　中村 哲也
管理者	病院長　森本　将史
職員数	865名（令和5年4月1日現在）
常勤医師	26名（令和5年4月1日現在）
開設	昭和60年11月
病床数	317床
標榜科	脳神経外科・脳神経内科・整形外科・内科・救急科 循環器内科・リハビリテーション科・麻酔科

横浜市の脳血管疾患増加傾向

横浜市における脳血管疾患による死亡者数は、年間2,000名を超え、死亡原因の第4位となっているほか、要介護となる方の多くは、脳血管疾患を原因としている。横浜市の救急隊が脳血管疾患を疑い救急搬送した患者数は令和2年度12,786名、令和3年度14,463名と増加、今後も高齢者割合の増加や生活習慣病患者増加により、多くの救急搬送が予想される。





よこはま保健医療プランより

近隣施設のSCU病床

脳卒中専門のユニットであるSCU病床を保有している近隣施設としては、昭和大学藤が丘病院（3床）、横浜総合病院（6床）が5km圏内にあるが、それ以外は物理的距離が5km以上離れている。
近隣施設の病院ではSCU病床を保有している施設が少ない。

近隣施設のSCU病床

脳血管疾患は早期対応が重要であり、なかでもt-PA療法や血栓回収療法は発症後できるだけ早くの治療が求められ1分1秒を争って実施する必要がある。迅速かつ的確な診断のもと、直ちに治療を開始するため、専門的な対応が可能なSCUは地域に不可欠であると考える

【5Km以上10Kmに広げると】

横浜圏域北部においては

・横浜新緑総合病院（緑区）6床

・横浜旭中央総合病院（旭区）9床

また隣接する川崎北部圏域には

・聖マリアンナ医科大学（宮前区）9床

・新百合ヶ丘総合病院（麻生区）9床

・帝京大学医学部附属溝口病院（高津区）3床

※搬送までに時間を有してしまう。

当院のSCU病床の傾向

		病床数	平均在室日数(1人当たり)	稼働率(1月当たり)	脳卒中割合	脳外科救急搬送件数
H30年度	SCU	18床	6.5日	101.4%	100.0%	3642件

※障害者病棟⇒急性期病棟へ

		病床数	平均在室日数(1人当たり)	稼働率(1月当たり)	脳卒中割合	脳外科救急搬送件数
R1年度	SCU	18床	6.5日	100.8%	100.0%	3905件

		病床数	平均在室日数(1人当たり)	稼働率(1月当たり)	脳卒中割合	脳外科救急搬送件数
R2年度	SCU	18床	6.8日	100.1%	100.0%	3604件

		病床数	平均在室日数(1人当たり)	稼働率(1月当たり)	脳卒中割合	脳外科救急搬送件数
R3年度	SCU	21床	7.0日	101.3%	100.0%	4262件

		病床数	平均在室日数(1人当たり)	稼働率(1月当たり)	脳卒中割合	脳外科救急搬送件数
R4年度	SCU	21床	6.3日	100.8%	100.0%	5134件

救急搬送件数の増加、新規の脳卒中患者様の入院により、1人当たりの在室日数が短縮傾向。SCU病床数を増やし、障害者病棟から急性期病棟へ変換しなくては、脳卒中の治療ケアに支障をきたしてしまい、新規脳卒中の搬送受入れを断らざるえない状況となる。

病床機能変更について

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
H30 年度	18 床	210 床	60 床	29 床	317 床
R1 年度	18 床	239 床	60 床	0 床	317 床
R3 年度	21 床	236 床	60 床	0 床	317 床
R5 年度	30 床	227 床	60 床	0 床	317 床

R1年度　急性期疾患患者の受入増加による急性期病棟の需要の高まりを受け、
障害者病棟29床（慢性期）を急性期29床に病床転換
（横浜北部エリアの地域医療検討会へ報告後、地域医療構想調整会議へ協議・報告漏れ）

R3年度　SCUを18床から21床へ（地域医療構想調整会議承認あり）

R5年度　SCUを30床へ計画

変更に伴う地域の受入れ体制について

①高齢化が進むことにより、脳血管疾患の患者数の増加が予想される。
②近隣の高度急性期SCU病床の保有施設が少ない。
③働き方改革により、中小規模の病院の脳卒中受入れ体制が縮小していく。

当院での病床機能変換をしなければ、救急搬送要請を断らざるえない状況となり、搬送場所の選定や受入れ困難など支障をきたすことが考えられます。脳血管疾患は早期対応が重要であり患者様への診療に影響も予想されます。

当院にて急性期・SCU病床を増床することで、地域の救急搬送患者様を断ることなく、専用の病床・専門チームで医療・看護を提供することにより、脳卒中早期治療、死亡率の減少、長期的な日常生活能力と生活の質の改善のため活用致します。

変更に伴う地域の受入れ体制について

今後とも継続した地域医療の提供のため、慢性期から急性期へ29床転換、SCU病床を30床へ変更について、何卒、ご承認の程、よろしくお願い致します。